

## 答辭

やわらかな陽の光に、春の兆しを感じられる季節となりました。本日は、私たちのためにこのようないいな素晴らしい式を挙行してくださり、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中、ご臨席いたただきましたご来賓、先生方、保護者の皆様に卒業生一同厚く御礼申し上げます。皆様から頂いた励ましの言葉を胸に、私たち百二十九名は、卒業します。

思い返すと、三国高校での三年間は多くの思い出や感情で溢れています。

私は三年前の四月、入学した日のことを昨日のことのように鮮明に覚えています。新型コロナウイルスの影響で常に表情がマスクに隠れ、「心の壁」を感じてしまう日々。クラススターが発生するたびに起る学級閉鎖やオンライン授業。楽しみにしていたお弁当も、自分の席で黙食をしなければならないような日々が続きました。しかし、そんな制限の中でも切磋琢磨し、多くの時間を共に過ごしていくにつれ、クラス全体・学年全体が前向きな気持ちになりました。

三年生になると、進路実現に向けた準備を進めながら、最後の学校行事に全力で取り組みました。いちばん印象深い行事は学校祭です。今年からコロナによる制限が撤廃され、全員での声出しができるようになりました。自由に声が出せること、みんなで声を合わせることは、心を一つに盛り上がるためには欠かせないことなのだとあらためて実感しました。一方で、コロナ前の学校祭を経験したことのない私たちにとっては、うまくいかないことも多く、挫折しそうなときもありました。それでも、短い準備期間の中で共に努力した仲間たちの笑顔のおかげで乗り切ることができました。この日は一生忘れることのできない、素晴らしい思い出と達成感で溢れ、私たち三年生の笑顔は学校一輝いていたと思います。

私自身の青春を彩ったものはやはり部活動です。女子バレーボール部での経験は部員のみんながいたからこそできた貴重なものでした。正直なところ、楽しい思い出ばかりではありませんでした。毎日のように喧嘩して、何度も怪我をして、「もう行きたくない」と思つたこともあります。それでも、割り切れない気持ちのまま出ていった練習のはずなのに、いつの間にかみんなとバレーボールを楽しんでいる自分がいました。そこには、すでに「ベスト八を取りたい」という同じ目標が共有されていて、だからこそ、目標を達成することができたのだと思います。今では、「この仲間でよかつた」と心から思えます。

「今までこんなキヤプテンについてきてくれてありがとう。このメンバーでベスト八を取れたことは私の財産です。」

高校生活の最後に、私たちを待っていたのは受験でした。試験本番が近づくにつれ、次第に焦りが生まれ、不安になることもありました。そんな中で、自分と同じように進路実現に向けて毎日努力している友人たちを見て、「私も負けていられない」とモチベーションを高めることができます。辛いとき、立ち止まってしまいそうなときにもらつた友人や先生たちからの言葉は今でも心に残っています。

三年間毎日私たちに寄り添い、時に優しく時に厳しくご指導してくださった先生方。受験の時期には、自分の時間を削ってでも私たち一人ひとりと向き合い、進路相談や面接練習に付き合ってくれました。本当にありがとうございました。

そして、ずっと温かく見守ってくれて、どんな状況でもいちばんの味方であり応援者でいてくれた家族。真面目な話も他愛もない話も聞いてくれて、辛いときには励ましてくれて、そつと背中を押してくれた家族には感謝してもしきれません。この場にいる卒業生全員が、ずっと家族に支えられてきたと思います。毎日送り迎えをしてもらったりお弁当を作つてもらつたりした人も多いでしょう。

中学生の頃から忙しい母に代わってお弁当やご飯を作るようになった私は、そんな友達の様子を羨ましく思つたこともありました。しかし、このような環境と母の懸命な姿は、何事においても自分で考え行動する力を育ててくれたのだと思います。

時には対立し、たくさん迷惑をかけることもありましたが、無事に卒業の日を迎えたのは家族のおかげです。

「私はお母さんの娘で本当によかつたと思つています。十八年間ありがとうございます。これから先もまだまだお世話になると思いますが、今度は私が家族を支えられるよう頑張ります。」

そして、今日一緒に卒業する三年生。私たちはこの三年間で多くのことを学びました。私たちは青春時代をコロナウイルスに翻弄されてきました。憧れていた高校生活とは違っていたかもしれません。また、学生時代にコロナの経験をしていない人たちに自分たちの思いが伝わらないこともあります。しかし、だからこそ、私たちは逆境を乗り越える我慢強さを身につけることができました。

これから私たちは、それぞれの道を歩みます。コロナ時代を乗り越えた私たちなら今までの経験を力にどんな困難も乗り越えていけます。

最後になりますが、今まで私たちにたくさんの愛情を注ぎ、応援してくださったすべての方々、そして私たちの成長の場である三国高校に心から感謝すると共に、三国高校のさらなるご発展を祈念しまして、答辞とさせていただきます。

令和六年三月一日

卒業生代表 濱田 美空